



高木たけし



みよし剛史

発行：日本共産党  
福山市議会議員団  
津之郷町津之郷 970-1  
084-952-2662

## 2023年3月議会報告

# 国保の増税やめよ

福山市は、2023年度の国民健康保険税を一人平均年額6704円引き上げ、11万2037円とする方針です。

## 住民の福祉の増進に反する

高木たけし市議は、「消費者物価指数が41年ぶりの高い伸びとなり、物価高騰が市民の生活や営業を直撃しているときに、国保税まで引き上げるとは地方自治体の役割である『住民の福祉の増進』に反する」と批判しました。

市民の経済状況と国保税引き上げによる影響について枝広直幹市長の認識をたてましたが、市長は答えませんでした。

## 1万3411円も引き上げ!?

市長は、広島県が示した保険税額より引き上げを抑制したとの釈明をしました。

広島県は、県内市町の保険料率を2024年度に準統一化する方針のもと、保険税額を参考として示しています。これにあわせると福山市では1万3411円もの引き上げとなるのを6704円に抑えたということですが、準統一化すれば、福山市民にとって大変な負担増となることが改めて明らかになりました。高木市議は「市として準統一化に反対せよ」と求めました。一方で、準統一化が前提であっても、三原市はこの

間、2年連続で引き下げ、新年度もすえおきとします。

高木市議は「保険税をいくりにするかは市町が決定できる」と強調。引き上げは撤回し、決算剰余金や財政調整基金を使って引き下げを行うよう求めました。

日本共産党以外の全議員は引き上げに賛成しました。しかし、福山市の国保税額が最終的に決定されるのは6月市議会です。「引き上げやめよ」の声を大きく広げることが大切です。

## 「準統一化やめよ」 広島県に声を

また、広島県議会で「準統一化やめよ」と声を上げる日本共産党の議席がいくつか重要となります。

## 5類化で傷病手当終了に

国保には傷病手当がありませんが、新型「コロナ特例で非正規雇用の労働者も支給を受けることができるところが、岸田政権が「コロナを5類」に変更するため、市は5月7日で支給を終了する方針です。5類化が公的支援の後退を招いています。

# 生活道路の安全を

## カーブミラーの適切な管理を

「見通しの悪い場所にカーブミラーをつけてほしいが、なかなかつかない」「ミラーがくもって見えにくい」という声が聞かれます。

みよし剛史市議が、過去5年間のカーブミラーの設置状況をたぐすと、地域からの設置要望が359件あったのに対し、設置は179件と半数にとどまったことが分かりました。

市は「鏡のみを注視することによる歩行者巻き込み事故の危険性について警察からの指摘もあることから、設置については慎重に判断」するとしています。

しかし、カーブミラーが設置されている交差点での巻き込み事故件数をたぐすと、市は「カーブミラーについての検証はされていない」と警察から聞いていると

答え、カーブミラー設置による巻き込み事故発生の根拠は示されませんでした。

みよし市議は、カーブミラー設置の効果を客観的に判定する仕組みや、ドライバーへの啓発など、一体的な交通安全対策の必要性を強調しました。

2017年度以降、カーブミラーのくもりやゆがみなどの変状が確認された713件のうち、改修が完了したのは662件とのこと

です。カーブミラーは市内に約1万2千本あるため、全体では約5%しか改修されていないことになりました。

みよし市議は「道路維持修繕実施計画にはカーブミラーの点検計画が明記されておらず、適切な維持管理が行われているのか不透明だ」と追及し、点検・改修の強化を求めました。

## 「消えた白線」 補修の強化を

「道路の白線など路面標示が消えたまま」という声も多く上がっており、日本共産党はこれまでも補修予算の増加を求めてきました。

市は新年度から「路面標示の3か年集中対策」を実施する方針で、「市道3500kmのうち500kmの幹線道路をおもに調査し、効果的な対策を実施する。その他の道路も地域と連携しながら取り組む」と説明しました。

みよし市議は「地域の生活道路の補修も重視し、集中対策にとどまらず日常的に継続した取り組みを」と求めました。

